

公民科（政治・経済）学習指導案

実施日時： 2023. 11. 29. 2 時間目
 学校・HR： 東京都立戸山高等学校 3 年 B 組
 授業者： 高橋朝子

1. 科目・単元名

「政治・経済」(平成 21 年 3 月改訂) (3) 現代社会の諸課題
 ア 現代日本の政治や経済の諸課題
 「ジェンダー平等を考える」

2. 単元の目標

この科目のまとめとして、現代社会の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、知識・技能、思考力、判断力、表現力等を身に付ける。

①「知識・技能」

・具体的事例を通じて、現代日本社会の現状を認識し、基本的人権の保障を規定している日本国憲法や、これまでの推移、他国との比較などの資料を分析し、解決すべき課題を理解する。

②「思考・判断・表現」

・これまでに学んだ知識である概念や考え方を生かして、人権の保障、公平性、多様性への対処について考え、他国の事例を参考にして、解決のための構想を考察する。

③「主体的に学習に取り組む態度」

・具体的事例に対する意見をまとめて、発言することができる。
 ・他者と協働的に考えを深める活動に積極的に参加する態度を身に付ける。
 ・多様性や公平性に対して理解を深め、私たちの生きている現実社会の諸問題を自らの関わりある問題として考えようとする態度を身に付ける。

3 単元の評価規準(ルーブリック)

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
A	資料を分析し、何が課題であるかについて整理して、これまで学んできた概念と関連付けて理解することができる。	具体的事例において、何を意図した施策かを多面的・多角的に考察し、例えば多様性や公平性などの概念と結び付けて、表現することができる。 振り返りシートに論点が整理され、分かりやすい文章で表現することができる。	積極的に議論に参加し、自分の意見を伝えるとともに他者の意見に耳を傾け、そのうえで、疑問や別の視点からの問いかけをしたことが、振り返りシートに記されている。
B	資料を分析して、何が課題であるかについて理解することができる。	具体的事例において、何を意図した施策かを考察し、表現できている。振り返りシートに自分の意見を表現することができる。	他者の意見を踏まえた発展的討論は十分ではないが、自分の意見は伝えることができたことが、振り返りシートに記されている。
C	資料の分析や課題の整理についての理解が不十分である。	記述内容が不明瞭であり、文章表現も不十分である。	積極的に議論に参加したことが、振り返りシートに記されていない。

4 指導観

(1) 単元観

3年生の最後の「政治・経済」の授業において、生徒自身に学んでほしいことは何かと考え、この単元を取り上げた。まずは日本の現状を認識し、その中の課題に気づくこと、自分のとらえ方と異なるとらえ方をする意見があることを知ることが重要である。そして、今後、主権者として日本の政治・経済について向き合っていく生徒たちが、自分の問題として日本の課題をとらえ、解決に向けた構想を考察し、それを社会に対して能動的に働きかける行動に結びつけるきっかけとなったと思う。

(2) 生徒観

多くが国公立大学進学を目指す進学指導重点校で、「政治・経済」を共通テストの受験科目としている生徒が約 3 分の1である。教育課程としては、全員が1年次に「倫理」を学び、3年次に「政治・経済」を学ぶ。今回授業を実施したクラスは、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)クラスで、物理・化学・生物・数学・情報に興味がある生徒で構成されている。「政治・経済」は受験には必要ないが、考えることや自分の意見を発表することは好きな生徒が多い。

実施したのは3学年なので旧課程の指導要領の適用を受けているが、2024 年度からは新課程で学んできた生徒たち(1年で「公共」、3年で「政治・経済」)となるため、新課程のエッセンスを採用した授業をおこなった。

(3) 教材観

教科書「政治・経済」(東京書籍)、資料「最新図説 政経」(浜島書店)、自作プリント、自作ppを使用し、授業を行っている。グループ学習をさせるにあたっては、自分の考えを先にプリントにメモさせている。「政治・経済」は、日常そのものが題材であり、その知識も考え方もダイレクトに生かせる科目であり、現在進行中の課題を考えることで、よりよい社会を構築していくための科目であることから、時事問題を取り入れた授業を心掛けている。今回は、受験勉強中の生徒たちが関心を抱かないわけにはいかない大学入試を取り上げて導入にしている。そして、社会では「ダイバーシティ&インクルージョン」などと言われるようになって久しいが、実際に多様性を実現するということはどういうことを具体的に考えさせ、公正・公平・多様性・幸福などの実現について考えを広げていくきっかけとさせた。

5. 単元の指導と評価の計画

単元を貫く大きな問い： 現代日本の政治・経済の課題解決に向けての施策の意図を理解し、自らはどうにかかわっていったらよいか。

時	配当 時間	★目標　○学習内容　・学習活動	評価基準			評価方法
			知	思	態	
1	★現代日本の政治分野において、基本的人権の保障と政治参加について、現状を理解し、その意義を考察する。					
	1	○基本的人権の保障 ○法の下での平等 性別、国籍、障害等による差別と法律 ○世論と政治参加 選挙権の拡大、様々な政治参加	●	●		・提出課題の記述分析 ・小テストにおける理解度チェック
2	★現代日本の経済分野において、女性の社会進出の現状と課題と理解し、どのような対応が望ましいか、考察する。					
	2	○雇用と労働問題 ・グループワーク 男性の育児休業について 現状(取得率推移、法改正など) 課題(家事時間、労働時間、賃金、子育て費用など)、企業の取り組み ・課題への記述		●	●	・議論への取り組み状況 ・提出課題の記述分析
③	★現代日本社会の変容の中で、多様性・公平性といった概念の重要性とその課題解決に向けた構想について、考察する。					
	1	○現代日本の政治や経済の諸課題 ・具体的事例(女性の社会進出) ・グループワーク ・課題への記述		●	●	・議論への取り組み状況 ・提出課題の記述分析

6. 本時(全3時間中の第3時)

(1) 本時の目標

現代日本の現状と課題を理解し、平等や多様性の概念に関して考えを深める。

(2) 本時の展開

時間	○学習内容 △生徒の活動 ▼授業者	◆指導上の留意点	◇評価規準(方法)
導入(4分)	○本時の目標を知る ▼ICTにてテーマを提示「現代日本の課題」 △社会において大切にすべき考え方、概念について考え、メモをもとに発表する。 ▼発表された考え方のうち、平等、公平、多様性について考えていくことを告げる	◆議論時間を確保するため準備時間は短めにする。 ◆自由に発言させる。 ◆他者の話を否定せずに受容することを重視させる。	

<p>展開①(18分)</p>	<p>○ニュースから考える なぜ女子枠導入がニュースになっているのか ▼ICT にて「入試に女子枠を導入する」ニュースを提示する。 △女子枠の設定に賛成・反対、その理由をまとめる。 ▼女子に有利で公平性に欠けるという意見と、もともと女子が少ないのだから実質的平等を確保できるという意見が予想される。 △異なる二つの意見について、グループで意見交換をする。 △女子枠の設定で、何が実現できると思うか、メモをもとに話し合い、まとめを発表する。 ※議論 10 分程度 まとめ、発表各班1分程度 ▼日本国憲法の権利規定を確認させる。 ・第 14 条、第 26 条 ▼「高等教育機関における女性の現状」の資料を提示する。 ・女子学生の割合の変化、女子大学の変遷</p>	<p>◆議論の進行状況が芳しくないグループに関わる。 ◆10 分程度経過した際に、各班がまとめに入るように促す。 ◆各班のポイントや生徒の価値観を揺らす事柄について強調する。</p>	<p>◇グループワークの取り組み状況(机間巡視・観察)【主体性】 ◇各グループで完成した議論メモの状況(ワークシート)【思考・判断・表現】</p>
<p>展開②(20分)</p>	<p>○資料から考える 改善すべき課題について気付き、どのような解決の方向性があるか考える ▼資料を提示し、説明する。 ・「ジェンダー指数」のうち、「健康分野」「教育分野」は平等だが、「経済分野」「政治分野」が不平等である現状 ・「男女共同参画基本計画」から現状と目標 △実質的平等を実現するための施策について考えをメモし、話し合う。 ▼クォータ制が挙げられると予想される。自分があるいは自分の母親が立候補するとすれば？困ることはあるか想像させると、制度があっても進まないケースがあることに気付かせることができる。 ※議論5分程度 ▼政治参加について、諸外国の例を紹介する。 ・クォータ制の復習、政治分野における男女共同参画の推進に関する法律 ・パリテ法の説明、フランスの変化 フランス県議会議員の選挙ポスター</p>	<p>◆議論の進行状況が芳しくないグループに関わる。 ◆実質的平等を確保するには積極的な施策が必要であることに気付かせる。</p>	<p>◇グループワークの取り組み状況(机間巡視・観察)【主体性】 ◇各グループで完成した議論メモの状況(ワークシート)【思考・判断・表現】</p>

<p>まとめ(8分)</p>	<p>○人権が保障されることの意味と大切さを知る。 ○多数派でない人々の人権の保障の課題について理解する。 ▼社会において大切にすべき複数の概念(公平、平等、多様性など)について考えさせる。 ▼同時に平等性と多様性を実現するのは難しいという意見が予想される(少数派を優遇すれば、多数派から不平等だとの不満が出る)が、その場合はどうバランスをとっていくか、優先すべきなのは？と問いかける。 △振り返りシートに記入する。 再度、入試における女子枠の設定に賛成か反対か、政治分野におけるクォータ制について考えることで、自分自身の考えの変化を振り返り、改めて「ダイバーシティ」「エクイティ」という概念をふまえ、望ましい社会のあり方を考える。 △まとめたことをグループ内で共有する。</p>	<p>◆授業者の見解を話す際には、あくまでも個人的な意見であることを確実に伝える。 ◆社会の変化によって、人権保障のあり方は変わること理解させる。</p>	<p>◇振り返りシートの取り組み状況【主体性、思考・判断・表現】 B 評価の例： ・少し平等が崩れたとしても、守るだけの価値が多様性にはあると思う。 ・人によって公平性の考え方は違うので、他の意見の人の話を聞いてみるのが大切だ。 ・差別を解消するには公平性を追求するための逆差別は仕方がないと思うが、解消したらすぐになくすべきだ。</p>
----------------	--	---	---

注：・新課程における「政治・経済」で扱う場合は、「公共」で学んだ概念を活用するとともに、内容の不必要な重複がないよう留意する。

- ・新課程における「公共」の「B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」で扱う場合は、議員の年齢や性別の状況から「なぜ若い人や女性が少ないのか」といった具体的な問いを設けるなどの工夫をすると、「主として政治に関わる事項」としての政治参加の課題により焦点化できると思われる。